

一本の糸に無限の可能性を見出し、 チャレンジしていきたい。

高杉 哲朗

代表取締役社長 / 輸出業務



学生服

オフィス・ワーキング

ジーンズ・カジュアル

染色・加工

織物



もっと生の声

Q & A

—— 思い出に残っている出来事は？

2009年9月にパリで開催されたブルミエール・ヴィジョンで「ウールデニム」がハンドル賞を受賞したことです。最初は、お客様の要望から開発に至ったものでした。ウールをインディゴで染めることは通常不可能なことでしたが、開発に3年をかけ、染めるだけではなく手触りのよさや細部にまでこだわりました。

—— 今後挑戦してみたいことはありますか？

インターネットやSNS、アプリを活用した従来にない販売方法を開発したいと思っています。

—— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

人類の歴史と共に歩んできた繊維産業は、歴史と文化に彩られています。人類の成長、技術の発展と共に、まだまだ新しいものを開発することが可能です。ぜひ一緒に今までにないものを創ってみませんか。

現在の仕事に就く前はコンピューター関係の仕事をしていたという高杉社長は、奥様が現在の会社の次女であったことから、誘われて入社したそうです。「織物を作る過程はコンピューターとは違い、すべてが機械化されると良いものはできません。人が身につけるものですから、人の手や作り手の感性が加わることで良いものができると思っています。」

担当しているのは、自社で製造した織物をイタリアやフランス、アメリカ等へ向けて輸出する業務です。また、海外での展示会や商談会への出展やアテンド等の準備作業も行っています。「海外の大手メゾンや大手アパレルからの注文が入り、その製品を店頭で見たときには、とてもやりがいを感じます。洋服の歴史のある国で、私たちの作った織物が採用されると本当にうれしいですね。」海外出張でそれぞれの国によってもものづくりに取り組む姿勢や考え方の違いを知ることは、新たな発見や刺激にもなるそうです。

ショーワでは、他社に真似できない技術力を強みにナイロン、ウール、シルク、カシミアなどの通常では上手く染めることのできない糸をインディゴで染めて、生地にしてきました。「今後も、世の中にないもので、他社にできないもの(生地)を企画、開発、販売していきたいです。一本の糸に無限の可能性を見出し、チャレンジし続けていきたいですね。」

